

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

中興の祖の3つの能力

1. 1980年代までは伝説として語り継がれた中興の祖が数多く存在する。では失われた30年で、中興の祖と呼ぶに相応しい人物は誰か。そのリーダーたちは大きく3種類に分けられる。会社の危機を救い再建を果たした経営者。新たな事業を生み出し、会社や組織の姿を大きく変えた経営者。最後が、既存事業をベースに海外展開などで事業を拡大した経営者だ。「会社が置かれたフェーズに合わせて、3つの能力を備えた経営者を指名することが成長には必要だ」。入山章栄早稲田大学ビジネススクール教授はこう指摘する。
2. 一例を挙げると、武田薬品工業の武田国男氏だ。創業家の三男坊で、入社以来、一貫して窓際族。やる気を失いかけていたところから一転、「鬼」と呼ばれるほどの大改革を成し遂げた。長兄の彰郎氏が急逝し、急きょ社長を引き継いだ。「周りは“ゴマのすり兵衛”ばかり。全部飛ばしました」(国男氏)と語ったように、上司に取り入り社内政治に執心するような古い風土は切り捨てた。
3. 「会社というのは、命がけで取り組まないと絶対変わらへん。負けん気、やるんだという気持ち。それが揺らいだら、もうあかん。それが改革でしょう」(2003年、国男氏)という信念を貫き、会社を生まれ変わらせた。

(参考:「日経ビジネス」2022年1月24日号)

経営者のための理念・哲学

学を廃すべからず(佐藤一斎)

1. 禅の高僧・松原泰道氏は言う。「佐藤一斎が『言志晩録』の中で、例え視力や聴力が落ちても、見える限り、聴こえる限り、学を廃すべからず、と言っている。私も老いてきましたが、この言葉を糧として死ぬ間際まで読むこと、書くこと、話すことは続けていきたい」。
2. 安岡正篤師の高弟・伊與田覺氏は言う。「東洋の老いは人間完成に向けた熟成期なので。年を取るほど立派になり、息をひきとる時にもっとも完熟した人格を備える。そういう人生でありたい」。今年没後30年を迎える、森信三師にもこういう言葉がある。「80歳を境にして私が実践面で第一に取り組むことにしたのは、日常生活における^{きよし}挙止動作の俊敏さです」。

(参考:「致知」2022年4月号)

ワンポイント経営アドバイス

非財務情報の開示度合いが企業を左右する

1. 1月3日、米IT大手アップルの時価総額が3兆ドル(約340兆円)の大台を突破した。アップルの時価総額のうち、株主資本(株主が払い込んだお金と、これまでの利益の蓄積。総資産と総負債の差額)で説明できる部分はわずか2%しかない。残りの98%、320兆円以上の価値は決算書類のどこにも載っていないのだ。近年、時価総額のうち株主資本以外の部分は「非財務資本」(時価総額のうち、株主資本以外の部分。企業が将来稼ぐお金への期待を反映している)と呼ばれるようになってきている。
2. つまり非財務資本とは、過去の業績に代わって将来生み出す収益を説明する要素と言い換えることもできる。投資家が過去の業績に代わって収益予測に活用しているのは、例えば動画配信サービスを利用する顧客の数や新薬のパイプラインなど、決算書類に載っていない「非財務情報」だ。非財務情報の開示度合いが企業の生死を左右する時代がすぐそこまで来ている。

(参考:「週刊東洋経済」2022年1月22日号)

古典に学ぶ

商業道德の退歩

(解説) 世人ややもすれば、維新以後における商業道德は、文化の進歩に伴わずしてかえって衰えたと言う。維新以来物質文明が急激なる発達をしたるに反し、道德の進歩がそれに伴わなかったので、世人はこの不釣合の現象に著しく注目して、商業道德退歩というのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)